

2023. 4
(通巻第533号)

発行：
一般社団法人
大阪自治体問題研究所
(発行人：梶 哲教)
〒530-0041 大阪府北区天神橋1-13-15
大阪グリーン会館5F
TEL 06 (6354) 7220 FAX 06 (6354) 7228
http://www.osk-jichi.or.jp/
定価200円(消費税含む)
会員は会費に含まれます

おおさかの 住民と自治

・連載・

憲法を生かす



国会を知り、政党を知る

大阪府立布施高等学校社会科 梅田堅司

日本国憲法前文―抜粋―

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。……

日本国憲法第15条

- 1項 公務員を選定し、及びこれを罷免することは、国民固有の権利である。
- 3項 公務員の選挙については、成年者による普通選挙を保障する。

公民科の教員として、生徒たちが主権者として正しい判断に基づく投票ができるようになってほしいと考えています。

そのために、①国会でどのような議論が行われており、②各政党がどのような主張を展開しているかということを知ることが必要だと考え、主権者教育を行ってきました。本稿ではこの2点について実践を紹介します。

■国会での議論を知る

こちらは2018年に行った取り組みです。

私が担任をしていた学年では、1年生から2年生になる春休みの課題として国会中継の視聴を課しました。課題の内容は当時行われていた予算委員会の質疑のうち、誰か一人の質疑を選びその内容をまとめたうえで意見や感想を書くというものです。

この課題を設定したのは、昨今の政治報道の劣化を感じていたからです。中継を見れば答弁に窮していることが分かるような質問があつたとしても、ニュースではすらすらと答弁しているように編集されていきました。そこで、編集なしの国会論戦がどのようなものが知ってもらいたいと思いました。

春休みの課題にした理由は大きく3点です。

1点目は、新年度予算を審議する予算委員会は日数が長く、多くのテーマが論

じられる点です。NHKの生中継も多く、民放のニュース番組等でも国会質疑の様子が報道されるため、生徒の関心が高まりやすいと考えました。

2点目は政治的公平性の問題です。国会質疑は短くても1人当たり20分程度であり、授業時間の制約から全政党の質疑を提示することは不可能です。そのため、生徒一人一人に質疑者を選んでもらうことにしました。

3点目は好きなタイミングで何度も見返せるという点です。近年は衆参両院のホームページやYouTubeなどでもストリーミング再生が可能です。質疑の内容をまとめる際に、動画を停止したり繰り返し見たりすることができるため、ネット環境が整う以前よりも生徒はこのような課題に取り組みやすくなったと思います。学校での視聴ではそれが難しく、まとめや感想も薄いものとなってしまいます。提出されたレポートには野党側の追及に誠実に答えず、冗長な答弁を行う大臣や官僚の発言をまとめるのに苦労したことや、首相の発言が分かりづらく聞き取りにくいいため、何度も聞き直したというような感想が多く書かれていました。当時の安倍首相と枝野代表の予算委員会における質疑応答では、枝野氏の発言内容

が明確でわかりやすい一方、首相の答弁はよく分からないという評価を出している生徒が多く、「イメージしていたのは違って、頼りない感じがした」という感想もありました。生徒は編集なしの一連の質疑を見ることの重要性を感じられたのではないかと思いますし、メディアの編集によって政治家の印象が大きく変わることを実感したのではないかと思います。

■政党の主張を知る

こちらは2018年、2020年、2021年に取り組んだ内容です。

多くの生徒は国政政党の名前を全て知っていないわけではなく、ましてや各政党がどのような政策を進めようとしているかを知りません。そのため2年次の主権者教育の授業を通じて行う模擬選挙において、各党の主張を具体的に知ってもらうような取り組みを進めてきました。

2018年は前項で紹介した学年で模擬選挙を行いました。学級内で班を作り、それぞれの班がどの政党を担当するかをくじ引きで決めました。そして、2017年衆議院選挙のマニフェストをもとに、各班が一つの政党の主張をまとめ、学級の生徒に投票を呼びかけるという形式で行いました。

班によっては全く馴染みのない政党を担当する場合もある中で、生徒たちはマニフェストを読み込み、票を得るためのアピールをどのように行なっていくかを考えて発表の準備を進めていました。

最終的な投票結果は、多くの票を獲得した政党がクラスによってまちまちでした。どの政党がいいかを選ぶものではなく、各班のプレゼンの良し悪しが大きく影響したためだと思います。他クラスの担任からは、政党名を連呼して楽しい雰囲気を作った班の得票が多くなったという意見も聞きました。政党の党首になつたつもりで投票を呼びかけると今回この模擬選挙は、楽しく取り組むことができた一方で、担当した政党以外の政党の主張を把握するところまでは到達できなかったと考えています。

2020年は主権者教育に割ける時間が少なかったこと、新型コロナウイルス感染症防止のためグループワークを控えたことから、生徒一人一人が2019年の参議院選挙のマニフェストを読み込んで投票先を決めるという形式にしました。2018年の取り組みでも同様ですが、模擬選挙の課題の一つとして、学年全体の投票結果をすぐに各クラスに返すことができないという点がありました。

しかし、一人一台端末(GIGA端末)配布により、デジタル投票ができるようになったことで、模擬選挙のあり方を大きく変えることができました。

2021年は2020年と同じく、生徒一人一人が2021年の衆議院選挙のマニフェストを読んで、投票先を決めるという形式にしましたが、ここで電子投票の強みである即応性を活かすことができました。普段の授業でも使用していたMentimeterというオンライン投票サイトとGoogle Meet(以下Meet)を活用しました。

まず、マニフェストを読む前に、今投票するならどの政党にするかということを開きかけ、Mentimeterで一度目の投票を行います。各クラス担任の端末からMeetの画面共有機能を使いMentimeterの画面を共有し、その画面をプロジェクトアタリから投影することで生徒たちがリアルタイムで投票結果を知ることができず。一度目の投票結果は概ね世論調査の結果と変わらないもので、自民党や維新の会が上位でした。

その後、マニフェストを読んだ上で2度目の投票を行います。このマニフェストはA党、B党、C党……と政党名を伏せたものになりました。そうすることで

政党名による先入観を排除した形で投票先を選ぶことができます。投票先もA党、B党のように政党名を伏せました。

2度目の投票も同じくMentimeterを使用しました。結果は一度目の投票から大きく変わり、共産党が30%近くで最多得票となりました。二度目の投票結果もリアルタイムで生徒に提示することができると、一度目の投票結果との違いに驚いている生徒が多かったです。

教育のデジタル化、オンライン化により、投票を短い時間に複数回行えるようになったことで、それまでできなかった方法で模擬選挙を行うことができました。生徒たちはいかに先入観や、普段のニュースで見聞きする回数で投票先を選んでいるかを、気づくことができました。

実際に生徒の感想では「ちゃんとマニフェストを読もうと思う」や、「このまま選挙に行っていたらよく考えずに政党を選んでいたと思う」といったものもありました。2018年の取り組みよりも生徒は各政党の主張の違いをよく理解できたのではないかと思います。

一方でこの形式の模擬選挙を行う際には、生徒が読むマニフェストを用意することに苦労を感じます。一党多弱と呼ば

れる政治状況で政党が乱立しているなか、政治的中立性の観点から特定の政党だけを抽出してマニフェストの抜粋を用意することが難しく、生徒からすれば膨大な文字数の資料を読まなければならないことになってしまいます。

また、選挙は定期的に行われるので、毎年同じ資料を使うということも難しいです。限られた時間の中で、政治的中立性を損ねないように資料を用意することは担当者には負担をかけるものでもあります。

また、主権者教育に割ける時間が短いため、自らの考えを深めたり、同級生と意見を交換して理想の社会像を考えたりするところまで到達させることが難しいです。2020年、21年は2時間分しかありませんでしたし、18年は5時間使いましたが、総括的な内容まで踏み込むことができませんでした。できるなら1年間かけてじっくり取り組みたいところです。

将来の有権者として適切な判断をくだし、政治に参画できるようにするために主権者教育は重要であると考えています。限られた授業時間の中でも効果的な成果を出せるよう、今後も更に工夫を進め、生徒が政治を知り投票に行こうと思えるような取り組みを行なっていきます。